

LGBT インバウンド誘致の現状と課題

1. はじめに

近年、世界でLGBT*1層を対象とした旅行ビジネスの可能性が注目を集めている。可処分所得が高く、購買意欲も旺盛だと言われるLGBTたちの旅行市場規模は、世界全体で2千億ドルと推計される。日本においても、世界のLGBTたちに対し公式に歓迎の意を示し始めた日本政府観光局と、LGBT向け旅行社、国際ゲイ・レズビアン旅行協会(IGLTA)加盟企業などが中心となったインバウンド誘致の動きが本格的になりつつある。また、いち早く動き始めた民間企業を追う形で、別府市やIGLTAに加盟する方針を決めた奈良県などの自治体も誘致活動に乗り出し始めている。

本課題では、LGBT旅行者の動向やニーズを調査し、イスラエルとギリシャのインバウンド誘致例を挙げながら、日本におけるLGBTインバウンドの可能性を考察する。

*1 レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー/トランスセクシュアル(T)の頭文字をとった総称

2. 旅行動向

2.1. LGBT旅行者が旅に求める要素

ITB Berlinが2014に発表した調査によると、LGBT旅行者に好まれる旅の要素としては、第1位が温暖な気候、次いで美術館や旧跡めぐり、食事と、ほぼ一般旅行者と変わらない。また、ゲイ/バイセクシュアル男性は都会を、レズビアン/バイセクシュアル女性はアウトドアを好む傾向にある。ゲイバーなどのLGBT向けアクティビティを好むのはゲイ/バイセクシュアル男性に多く、反対にレズビアン/バイセクシュアル女性には、あまり重要視されていないことがわかった。

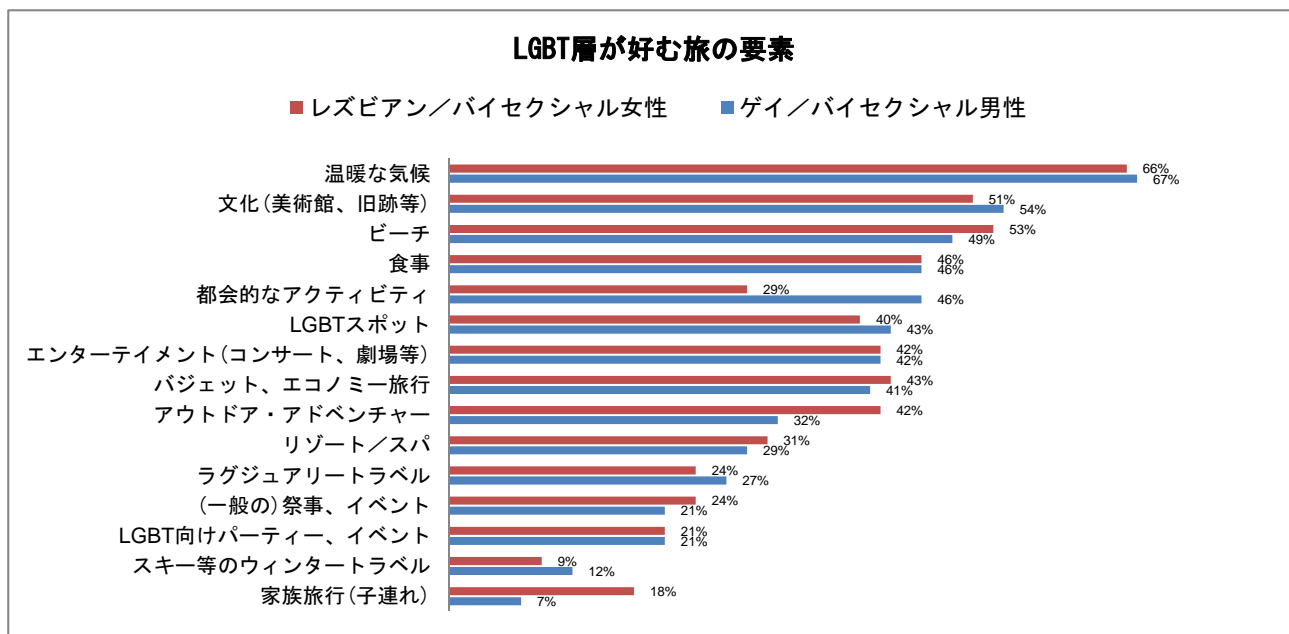


図1 (出典) LGBT Tourism & Hospitality ITB Academy 2014 より筆者邦訳

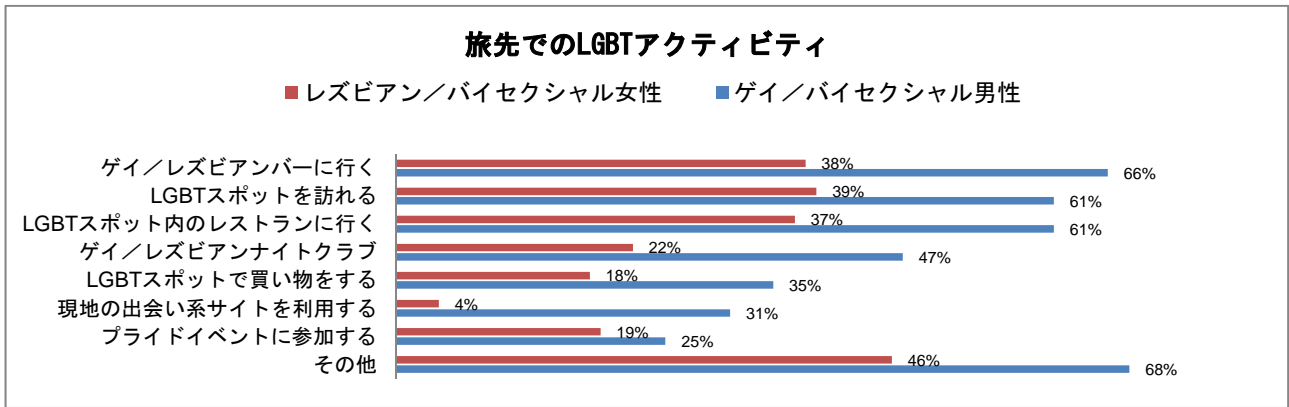


図2 (出典) LGBT Tourism & Hospitality ITB Academy 2014 より抜粋、筆者邦訳

2.2. 旅行先の選定要素

LGBT たちが旅行先を選定する際、重要視するものは何だろうか。国際ゲイ&レズビアン商工会議所のダレル・シューマン氏は、「LGBT 旅行者の 93%が『安全性』を、次いで 91%が『LGBT フレンドリー』を非常に重要な要因として挙げている。LGBT に歓迎的ではない国や都市は選択肢にすら挙がらない可能性がある。」と述べている

2013 年、ドイツの同性愛者専門旅行ガイド「Spartacus International Gay Guide」が世界 138 の国と地域を対象に「LGBT フレンドリーな国」をランキング化した「Gay Travel Index」を発表した。これは同性愛者にとって旅行先として適しているかを調査したもので、以下の 14 項目の基準により評価され、総合スコアが高いほど、同性愛者の旅行しやすい国／同性愛に寛容な国であると言える。

プラス要因												マイナス要因	
同性婚／パートナーシップ制の有無	同性愛者差別を禁止する法律の有無	同性カップルの養子縁組の可否	LGBTマーケティング	性的同意年齢の平等	宗教上の影響	HIV感染者の入国制限	同性愛禁止法の有無	同性愛の違法性	ゲイ・パレードの取締まり	国民の非友好的感情	同性愛者の起訴・告発	同性愛者への殺人	同性愛者への死刑宣告

下の図は、Gay Travel Index の評価指数と LGBT 旅行者に人気のある国との比較をあらわしたものである。

国	地域	スコア	差別を禁止する法律の有無	同性間の関係性の承認 パートナーシップ制度	同性結婚の有無	LGBT旅行者 (2015年)	一般旅行者 (2014年)
スウェーデン	欧州	9	○	○	○		
ベルギー	欧州	8	○	○	○		
フランス	欧州	8	○	○	○	2	1
オランダ	欧州	8	○	○	○		
イギリス	欧州	8	○	○	○	4	8
カナダ	北米	7	○	○	○	5	
デンマーク	欧州	7	○	○	○		
アイスランド	欧州	7	○	○	○		
ノルウェー	欧州	6	○	○	○		
スペイン	欧州	6	○	○	○	8	3
ウルグアイ	中南米	6	○	○	○		
ドイツ	欧州	5	○	○	×	6	7
アルゼンチン	中南米	4	×	○	○		
オーストリア	欧州	4	○	○	×		
フィンランド	欧州	4	○	○	○		
ルクセンブルク	欧州	4	○	○	○		
ニュージーランド	オセアニア	4	○	○	○	10	
ポルトガル	欧州	4	○	○	○		
スイス	欧州	4	○	○	×		
オーストラリア	オセアニア	3	○	○	×	3	
(中略)							
イタリア	欧州	1	○	×	×	7	5
メキシコ	中南米	1	○	△	△		10
タイ	アジア	1	○	×	×		
アメリカ	北米	1	△	○	○	1	2
(中略)							
ギリシャ	欧州	-1	○	×	×	9	

図3 (出典) Out Now Consulting, Spartacus, UNWTO の Web サイトデータより作成

ランキング上位国は欧州勢が占めており、同性愛者への差別禁止法や同性婚もしくは同性間の関係性を法的に認めたパートナーシップ制度を持っている。また、Gay Travel Index のスコアと LGBT 層の人気旅行先とはほぼリンクしていることもわかった。

以上のことから、LGBT 旅行者の取り込みにはゲイアクティビティの充実をはかるよりも彼らへの友好的、歓迎的な態度や、国・自治体が地元の LGBT コミュニティを受け入れ、法的な権利保護を行っていることが重要なファクターであると言える。また、候補地の観光局や観光協会による LGBT インバウンドの取り組みが熱心であるほど、彼らの消費動向が強くなるとの調査結果もあった。

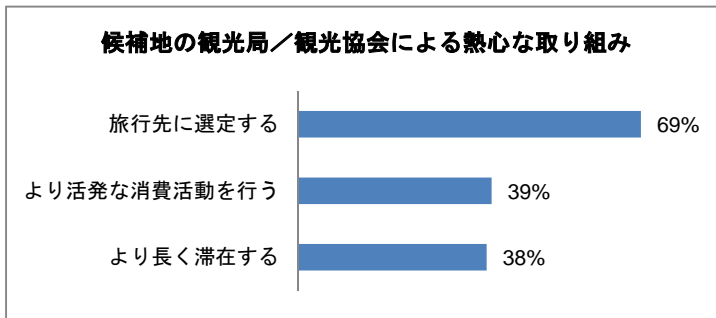


図4 (出典) LGBT Tourism & Hospitality ITB Academy 2014 より筆者邦訳

3. LGBT インバウンドの取り組み例 ～イスラエルとギリシャ～

3.1 イスラエル

2009年、イスラエルの経済・文化の中心都市テルアビブで、イスラエル観光省からの助成金と市の観光予算の3分の1を充てた LGBT インバウンド誘致の一大プロジェクトが起こった。アメリカの有名ブロガーを旅費持ちで招待するなどして、テルアビブの暖かな気候や美しいビーチ、活気ある地元のゲイコミュニティなど同性愛者に好まれる要素を世界に発信したところ、プロジェクト開始からわずか3年でゲイツーリズムの注目スポットに躍り出た。GayCities.com が 2011年に主催したランキング投票では、全投票の43%を獲得し、ニューヨークやベルリンを押さえて「世界で一番のゲイの町」に選出されるまでに至った。

同性愛を禁じるユダヤ教国家のイスラエルは LGBT 層から敬遠されがちな国であったが、国ではなく、比較的宗教色の薄いテルアビブ単体を全面に出して売り込んだことが成功につながったと考えられる。テルアビブのフルダイ市長によると、LGBT ツーリズムは、経済効果だけではなく、市のイメージアップにも役立っていると語っている。

しかし、成功を収めたイスラエルの LGBT インバウンドに対し、「ピンクウォッシング」だと非難の声もあがっている。「ピンクウォッシング」とは、“うわべを取り繕う”という意味の英語「ホワイト・ウォッシング」から派生した造語で、人権を尊重するリベラルな国というイメージを打ち出すことにより、パレスチナとの紛争問題をごまかしているというのだ。また、ユダヤ教中でも戒律の厳しい一部宗派からの同性愛者差別・迫害も根強く残っている。

3.2 ギリシャ

観光業が最大の産業であるギリシャは、20%の国民が観光業に従事し、経済に占める割合は約16%にのぼる。(観光収益は年間約1400億ドル)しかし、負債問題などが原因となり、観光収益が下落しつつあった。ミコノス島やレスボス島は、過去数十年にわたり同性愛者にもっとも人気のある旅行先だったが、オランダのOut Now Consulting社が2010年に行った調査では、「LGBTが今後3年以内に旅行したい国」の上位10カ国に入ることができなかった。かつての人気トップの座から陥落した原因は、国民の98%を占める同性愛に否定的なギリシャ正教会からの差別問題だった。そこでギリシャ政府は、観光業の振興に注力、巻き返しを図る意向を示し、2010年7月に既存の伝統的な家族法を改正して同性カップルの権利を認める法案を提出するべく、シビル・ユニオン委員会を立ち上げた。また同年、政府としてはじめて「アテネ・プライド」に協力、政府観光局のWebサイトで公に紹介し、世界に向けてPRを行った。

地道に法整備を進めてきた結果、2015年12月の同性カップルの権利を認めたシビル・パートナーシップ法の可決に先立ち、Out Now Consulting社の2015年調査では、ギリシャは9位に返り咲いた。同年のLonely Planetの調査でも、ミコノス島が7位に選ばれている。法案可決により、LGBT旅行先としては、バルカン半島の国々ではギリシャが突出した存在になり、特に同性愛を認めない隣国トルコよりも多くのLGBT層を引きつけ、旅行者数が急増すると見込まれている。

4. 日本の法整備の現状

キリスト教、ユダヤ教、イスラム教国とは異なり、仏教、神道とも同性愛を禁じていない日本は、古来より同性愛に対し寛容な国だった。西欧文化の影響を受けた明治時代初頭に同性愛を禁じた法律が制定されたが、9年という短い期間で撤廃された。直接的な同性愛者の迫害や逮捕などの歴史を持たなかった日本では、反対にLGBT当事者の権利運動が顕在化、活発化することもなかった。これが、国連からの数回にわたっての是正勧告と、「日本のLGBT対応が遅れている」という国際的評価を生み出す原因になったと考えられる。「Gay Travel Index」においても、日本はこれまでの同性愛に対して無関心な社会情勢を反映したためかマイナス1という低スコアであった。

日本のLGBTへの権利保護と法整備の現状を以下で説明する。

【同性愛の違法性】

日本では同性愛行為を規制する法律は存在せず、成人の同性間の私的な性的行為は違法ではない。

【LGBTへの法的保護】

現在の法律では、性的指向を明示して保護していない。これは日本においてLGBTの人々が雇用や教育、居住や健康、財産などで差別を受けた場合に拠り所となる法的手段がないことを示している。たとえば、同性カップルには配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)は適用されず、雇用機会均等法においてもジェンダーや性的指向による差別の禁止への拡大適用は認められていない。

【同性婚／パートナーシップ法】

日本では、同性婚は認められていない。日本の憲法（第 24 条）では、婚姻の原則は「両性の合意のみに基づいて成立」と規定されている。これは、かつての「親による婚姻・離婚の強制」や「男性による女性支配」を否定するための条文だったが、この「両性」が男女を指しているものとし、同性間の婚姻を想定していないと解釈されている。

2015 年 4 月、東京都渋谷区で日本初となる同性間によるパートナーシップ条例が可決成立した。渋谷区に続き、同年 8 月には東京都世田谷区で、同性カップルの宣誓を認める公的書類を発行すると定めた要綱が発表されたが、どちらの制度についても、あくまでも条例、要綱であるため法的な強制力は弱く、異性カップルのように婚姻によって得られる権利や法的な地位などは認められていない。

5. まとめ

このわずか 1 年の間に渋谷区、世田谷区に続いて同性間のパートナーシップ制度を導入しようとする自治体が加速度的に増えてきている。伊賀市、宝塚市、那覇市、横浜市、千葉市、そして和歌山県の橋本市が、現在導入準備中、または検討中である。大阪市淀川区のように LGBT への支援事業を始めた自治体もあり、この流れは今後も全国で広がっていくと予想される。その追い風を受け、国も動き始めた。

オリンピック組織委員会(IOC)は性指向、性自認による差別禁止を掲げている。同性愛を違法とするロシアのソチオリンピックで、アメリカ、ドイツなどの主要国が開会式をボイコットした事件も記憶に新しい。日本でもようやく 2020 年のオリンピック開催に向け、また社会の関心の高まりを受け、LGBT 差別の解消に向けた超党派による法制化ワーキングチームが立ち上がった。まずは、差別禁止法、続いて異性カップルと同等の権利を受けられることができるようなパートナーシップ法が整備されれば、国としての国際評価が高まるだけでなく、さまざまなマーケットの拡大が予想される。2005 年末にシビルユニオンを施行したイギリスでは、指輪の購入や結婚披露宴、新婚旅行の需要が生まれ、1 億 3000 万ポンド（約 161 億円）の経済効果があったと報じられている。

ツーリズムにおいても、ヨーロッパに何度も訪れた LGBT 旅行者たちは、昨今、オーストラリアやニュージーランドなど、LGBT フレンドリーかつ目新しい国・都市を旅行先として選ぶ傾向にあると言われている。LGBT フレンドリーの評価を高め、適切なマーケティングを行えば、温暖なビーチ(沖縄など)や、特色ある歴史・文化、日本食などの魅力にあふれる日本は、LGBT 層に高く評価されると確信している。

参考文献

ITB Berlin, LGBT Tourism & Hospitality ITB Academy 2014

http://www.itb-berlin.de/media/itb/itb_dl_de/itb_itb_berlin/itb_itb_academy/2_ITB_Academy_LGBT_second.pdf

UNWTO, Global Report on LGBT Tourism

<http://www.e-unwto.org/doi/pdf/10.18111/9789284414581>

Out Now Consulting, New research: LGBT travel - Where will gays and lesbians holiday in 2015.

<http://www.outnowconsulting.com/latest-updates/press-centre/new-research-lgbt-travel-where-will-gavs-and-lesbians-holiday-in-2015.aspx>

Home Around the World, Gay Travel Statistics

<http://www.homearoundtheworld.com/page/gay-travel-stats-2>

Spartacus, Gay Travel Index , 2013

<http://www.west-info.eu/the-most-gay-friendly-place-in-the-world-is/gay-travel-index/>

Darrell Schuurman, Hotel Business Review, Meeting the Needs of the LGBT Travel Market

http://hotelexecutive.com/business_review/4111/meeting-the-needs-of-the-lgbt-travel-market

Ido Rabin, Quora, Is Israel LGBT-friendly?

<https://www.quora.com/Is-Israel-LGBT-friendly>

Meirav Crystal, Ynetnews. In Tel Aviv, gay pride pays off - Israel Business

https://www.google.co.jp/?gws_rd=ssl#q=in+Tel+aviv++gay+pride+pays

Greek Travel Pages, Mykonos, Greece Considered Gay-Friendly Spot For Travel

<http://news.gtp.gr/2014/03/13/mykonos-greece-considered-gay-friendly-spot-travel/>

Lonely Planet, The most gay-friendly places on the planet

<https://www.lonelyplanet.com/travel-tips-and-articles/the-most-gay-friendly-places-on-the-planet>

現代思想. 「特集 LGBT 日本と世界のリアル」 2015年10月号. 青土社